

# ASIA Indicators

定例経済指標レポート

## 中国、景況感は悪化するも高水準を維持 (Asia Weekly (12/27~1/1))

~PMIは5ヶ月ぶりに悪化するも依然50を超えており、景気拡大は続いている~ 発表日:2011年1月4日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/28 (火)	(タイ) 11月製造業生産 (前年比)	+5.6%	+6.8%	+6.0%
	(前月比/季調済)	+0.7%		▲0.8%
	(香港) 11月輸出 (前年比)	+16.6%	+12.1%	+13.9%
	11月輸入 (前年比)	+16.4%	+13.8%	+14.0%
12/29 (水)	(フィリピン) 金融政策委員会 (政策金利)	4.00%	4.00%	4.00%
12/30 (木)	(韓国) 11月鉱工業生産 (前年比)	+10.4%	+11.0%	+13.5%
	(前月比/季調済)	+1.4%	+2.1%	▲4.2%
	(タイ) 11月輸出 (前年比)	+28.7%		+16.6%
	11月輸入 (前年比)	+35.0%		+13.0%
	(台湾) 金融政策委員会 (政策金利)	1.625%	1.625%	1.500%
12/31 (金)	(韓国) 12月消費者物価 (前年比)	+3.5%	+3.2%	+3.3%
	(前月比/季調済)	+0.6%	+0.3%	▲0.6%
1/1 (土)	(中国) 12月製造業PMI	53.9		55.2
	(韓国) 12月輸出 (前年比)	+23.1%	+19.4%	+24.6%
	12月輸入 (前年比)	+23.3%	+20.0%	+31.2%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### 【中国】 ~製造業PMIは5ヶ月ぶりに悪化するも依然高水準。景気拡大は続いている~

1日に発表された12月の製造業PMI（購買担当者景況感指数）は53.9と、前月（55.2）から▲1.3p低下し5ヶ月ぶりに悪化した。政府による省エネ目標達成のための電力供給抑制の結果、一部で生産に悪影響が出たほか、物価上昇や金融引き締めの影響により、先行きの需要に頭打ち感が懸念されることが下押し要因となった。ただし、22ヶ月連続で景況感の分かれ目となる「50」を上回っており、依然景気は拡大基調にある。

なお、30日にHSBCが発表した12月の製造業PMIも54.4と、前月（55.3）から▲0.9p低下し、5ヶ月ぶりに悪化した。足元の生産に加え新規受注や輸出向け新規受注なども悪化し、先行きの生産への影響が懸念される。ただし、こちらも21ヶ月連続で50を上回っている。

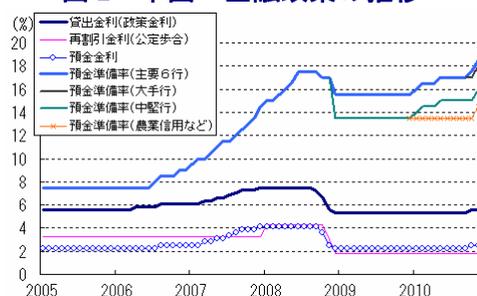
政府は先月開催した中央経済工作会議において、金融政策の方針を「適度に緩和的」から「穏健（安定的）」に変更した。これによって、金融引き締めを舵を切る姿勢を示し、預金準備率や政策金利の引き上げを決定しているが、景気に配慮して財政政策は「積極」姿勢を堅持した。物価上昇圧力の高まりや金融引き締めによる悪影響は懸念されるものの、財政支出により景気は下支えされ、急激な景気悪化は免れよう。

図1 中国 製造業 PMI の推移



(出所) 物流購買連合会、Markit より第一生命経済研究所作成

図2 中国 金融政策の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [韓国] ～内・外需の堅調を受けて生産は底堅く推移。物価上昇圧力は徐々に高まっている～

30日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+10.4%と、前月(同+13.5%)から伸びが鈍化した。しかし、前月比は+1.4%と前月(同▲4.2%)までの3ヶ月連続の減少から増加に転じ、平均設備稼働率も80.9%と前月(79.7%)から4ヶ月ぶりに好転、2ヶ月ぶりに80%台となった。雇用環境の改善による内需の堅調に加え、外需もアジア向けを中心に底堅く推移し、生産は押し上げられた。

1日に発表された12月の輸出額は過去最大となり、前年同月比+23.1%と前月(同+21.5%)から伸びが拡大した。前月比(試算値)も+9.0%と前月(同+0.5%)を上回り、アジア経済の堅調や米国のクリスマス商戦の好調を受けて増加した。他方、12月の輸入額は前年同月比+23.3%と前月(同+30.8%)から伸びが鈍化した。前月比(試算値)は+3.5%と前月(同+9.3%)に続いて増加し、内需の堅調を受けて過去最高額となった。貿易収支は+37.43億ドルの黒字と前月(+26.72億ドル)から黒字幅が拡大している。11月の経常収支は+19.30億ドルと黒字を確保し、12月についても経常黒字の拡大が見込まれる。

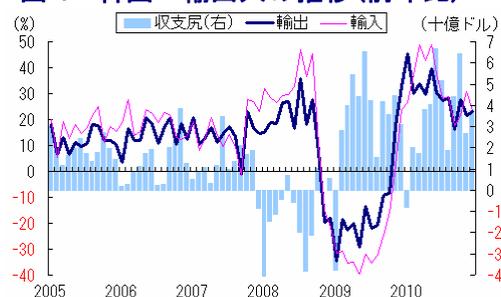
1日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+3.5%と、前月(同+3.3%)から加速した。前月比も+0.6%と前月(同▲0.6%)から上昇に転じ、前月に落ち着きをみせた食料品価格が再び騰勢に転じたことが影響した。不動産融資規制の緩和により、下落基調が続いてきた首都ソウル近郊の不動産価格が下げ止まるなど資産価格にも底打ち感が出ており、雇用環境の改善を背景に物価上昇圧力は高まっている。12月のコア物価は前年同月比+2.0%と、11ヶ月ぶりに金融当局の定めるインフレ目標域(2.0~4.0%)に達しており、今後は金融引き締め姿勢が徐々に強まると予想される。

図3 韓国 鉱工業生産と設備稼働率の推移



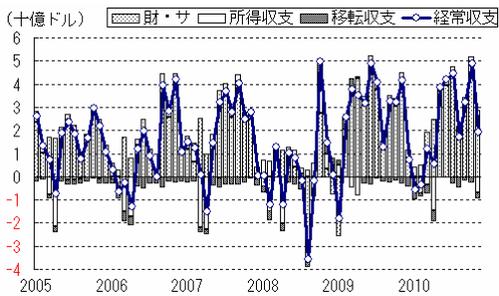
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 韓国 輸出入の推移(前年比)



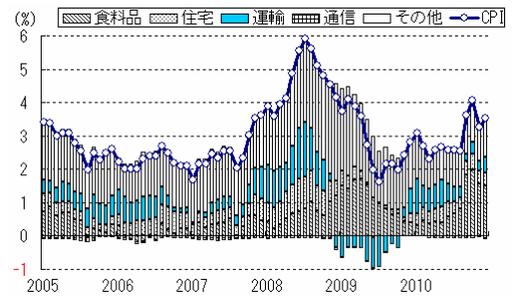
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 韓国 経常収支の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 韓国 消費者物価の推移(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 韓国 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 韓国 政策金利の推移

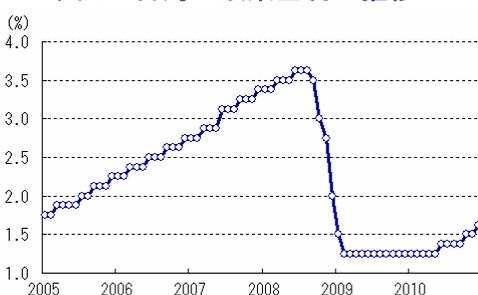


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【台湾】 ～不動産価格の急騰などインフレリスクに対応して、金融引き締め姿勢の強化を発表～

30日、台湾中央銀行は定例の金融政策決定会合を開催し、政策金利を12.5bp引き上げ、1.625%とする決定を行った。同行は、昨年6月の定例会合で2年ぶりに利上げを実施して以来、今回で3回連続の利上げとなる。11月の消費者物価は前年同月比+1.53%と、前月(同+0.56%)から加速し、前月比も+0.13%と前月(同+0.06%)から上昇圧力が強まっている。特に、中国本土からの投資資金の流入や市中の過剰流動性により、不動産価格は前年比二桁%の伸びとなるなど、資産バブル懸念が高まっていることが、金融引き締めを強める要因となった。さらに当局は、不動産価格の高騰に対応するため、11地域に対して不動産融資規制を実施する方針を明らかにしている。中国本土からの資金流入は続いているため、今後も金融引き締めは徐々に強化されよう。

図9 台湾 政策金利の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 台湾 消費者物価の推移(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上